



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

スマホを手にしたら

光が差し込むような芽吹きを目前にした3月、昨年の子どもの自殺が過去最多というニュースを目にした。インターネットやSNSの普及で便利になったり、世界が近く、広くなったりした分、ピカピカで未熟な心や頭は情報が多すぎて処理しきれなかったり、惑わされたりしとるんじゃないかと思う。それだけが原因じゃないにしても影響は大きいはず。

入学や進学と同時にスマホを手にした子どもたちへ、覚えておいてほしいことがある。SNSで目にする世界は8割が造られたものやと思っといいていい。それくらいで見てほしい。お人形さんみたいな容姿も、豪華な生活も家も。そして、そこはその人のキラキラした部分だけを切り抜いた世界やからね。どんな人でも365日24時間、輝いとるわけじゃないからね。

造られた世界と現実を分けることができなくなると辛くなってしまふ。ピカピカでふわふわの心がそんなことで潰されてしまわんように、それだけは覚えておいてほしい。スマホもSNSもインターネットも上手に使えば便利で楽しい。

自分や誰かを傷つけるものにならんように、ね。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.149

「一網打尽」

砂地でダイビングをしていると、高さ3m、直径2mほどの、円筒形の網が沈んでいることがある。これは、「チヌ籠かご」とか「籠網かごあみ」と呼ばれる魚を捕るための道具だ。略して「籠かご」と呼ぶことが多いようだ。沈めてすぐのものは、縛り付けた木の枝に、青々とした葉が茂っている。

中に何も入っていないこともあるが、この日はたくさんの魚が入っていた。捕れる魚の多くが、グレ(愛南町でクロイヨとかクロウオ)だが、オオモンハタやイシダイなどの高級魚も混じっていた。

この漁は、魚の習性をうまく利用している。多くの魚は、敵から逃れるために、サンゴや岩の陰に身を隠す。その習性を利用し籠の周囲に、葉の付いた木の枝を縛り付け、中が暗くなるようにする。入口は1カ所しかなく、地獄網に



【籠網の入口から中を見ると…。】

なっており、一度入ると出ることができない。魚が入ったところを見計らい、クレーンを使って船の上に引き揚げる。

この日見つけた籠は大漁だったので、漁師さんが引き揚げたときの喜ぶ顔が目に見え、捕っても、撮っても、魚と触れ合うのは楽しいものである。

(撮影地：愛南町鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる